

帯広市民大学講座

砂糖・冷戦・革命: 日本の対キューバ外交と日米関係

講師／ロメロ・イサミ (帯広畜産大学准教授 政治学)



原爆慰霊碑の前に立つチェ・ゲバラ=右から3人目
(1959年7月25日、中国新聞写真部 吾郷一郎撮影)

【日程】 10月25日 (土)
16:00～18:00 (開場: 15:30)
【会場】 とかちプラザ2階
視聴覚室
帯広市西4条南13丁目

定員: 80人 入場無料

太平洋戦争後の日本は深刻な食糧難に直面し、GHQの許可によりキューバからの砂糖輸入が進みました。占領期から国際復帰後もキューバ糖が日本国内の市場を支配しました。そして1959年のキューバ革命後、国内の砂糖市場は大きな問題に直面しました。

米国はキューバと断交し、日本にも同調を求めました。しかし、当時の池田政権はこれに応じず「独自路線」を取りました。

本講演では、その外交判断の背景と「砂糖」が戦後日本外交に与えた影響を最新の外交史料研究を通じて紹介します。

【申し込み・問い合わせ先】

帯広市教育委員会 生涯学習部 生涯学習文化課 (対応時間: 月～金9:00～17:30)

電話もしくは「帯広市民大学講座」ホームページより申し込み。

電話: 0155-65-4192

Email: social_educate@city.obihiro.hokkaido.jp



【主催】 国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学／帯広市教育委員会